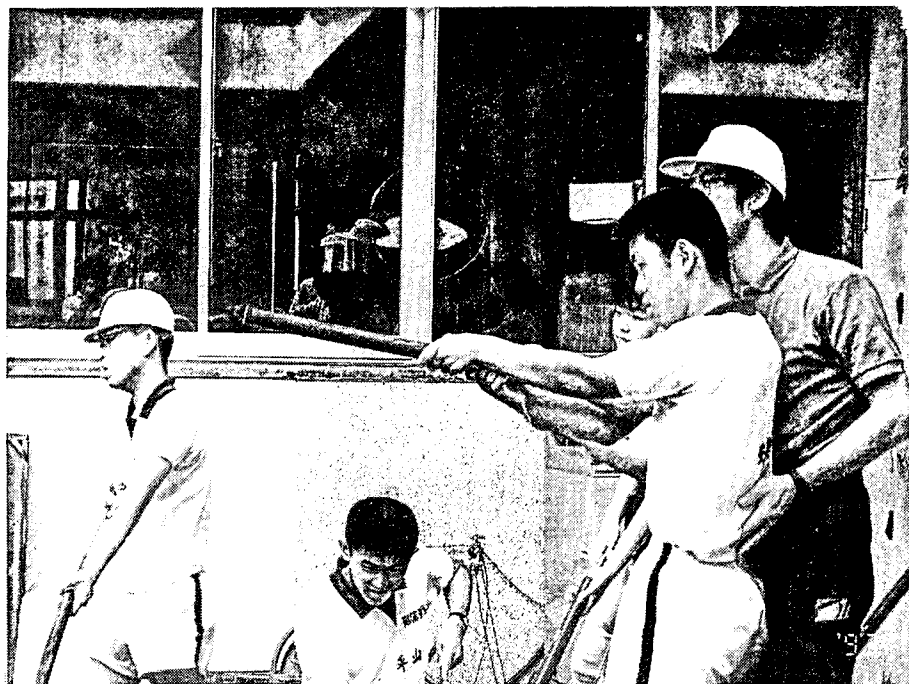


かかわり合いの豊かな子供を育てる 教育課程の編成

—学部研究編—



平成6年2月

鹿児島大学教育学部附属養護学校

は じ め に

学校長 厚 東 孝 治

21世紀を目の前にして、新しい学習指導要領に基づいた教育が展開されておりますが、今日の教育は、一人一人の個性や人間性を大切に、自ら学び、心豊かでたくましく生きる力を身に付けた子供の育成をめざしております。特殊教育においても、御承知のとおり、一人一人の心身の障害の種類や程度、能力・特性等に応じて、よりきめ細かい教育を行い、可能な限り積極的に社会参加と自立できる子供の育成が求められております。わたくしたちは、やがて来る21世紀に、本校で学ぶ子供たちが大きく羽ばたき、心豊かでたくましく生き抜いてくれることを願って日々の教育に精進しているところで

す。

本校では、昭和55年に開校して以来「発達に即応した教育課程の編成」、「生き生きと動く子供を育てる教育課程の編成」、「かかわり合いの豊かな子供を育てる教育課程の編成」という教育課程に関する研究主題を設定し、それぞれ本校がかかえる教育課題や時代の要請に沿って研究を進めて参りました。

今回、公开发表の運びとなりました「かかわり合いの豊かな子供を育てる教育課程の編成」は、平成2年度から4か年間の継続研究で、これまでの教育実践の反省とともに時あたかも学習指導要領の改訂が行われたことに伴い、本校の教育課程を見直す機会として取り組んだものです。研究を進めるに当たりましては、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、子供の実態把握と課題の明確化、教育目標の見直し、教育課程全体構造の検討など教育課程編成の基礎研究を基に、各領域・教科の指導計画を作成しました。さらに、実践研究では、子供の「自我」に視点を当て、かかわり合いの豊かさを探ることにしました。「自我」という子供の内面に目を向け、かかわり合いの豊かさを探ることは、これまで知識や技能を身に付けることを重視した教育から、豊かな感性や社会性、さらには子供自ら判断し行動する資質や能力を身に付ける教育への転換でもあり、今正に求められている新しい学力観に通じることでもあると思います。

ここに、教育課程編成の一応のまとめとして発表いたしますが、指導内容や指導方法等に改善の余地が残されているように思います。本研究会を通して、各先生方から多くの御意見、御指導をいただき、今後充実した研究に役立てたいと考えますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

終わりに、今回の公開研究会に際しまして、講演を快くお引受けくださいました東京都教育庁の大南英明先生をはじめ、後援をいただいた鹿児島県教育委員会と鹿児島市教育委員会、さらには、研究推進に絶えず懇切な御指導をいただいた諸先生方に深く感謝の意を表します。

平成6年2月4日

総 目 次

はじめに.....	校長 厚 東 孝 治
第一部 研 究 基 調.....	1
第二部 学 部 研 究	
小 学 部.....	33
中 学 部.....	69
高 等 部.....	99
本研究を終えて及び今後に向けて.....	131
おわりに.....	副校長 塩 屋 重 徳